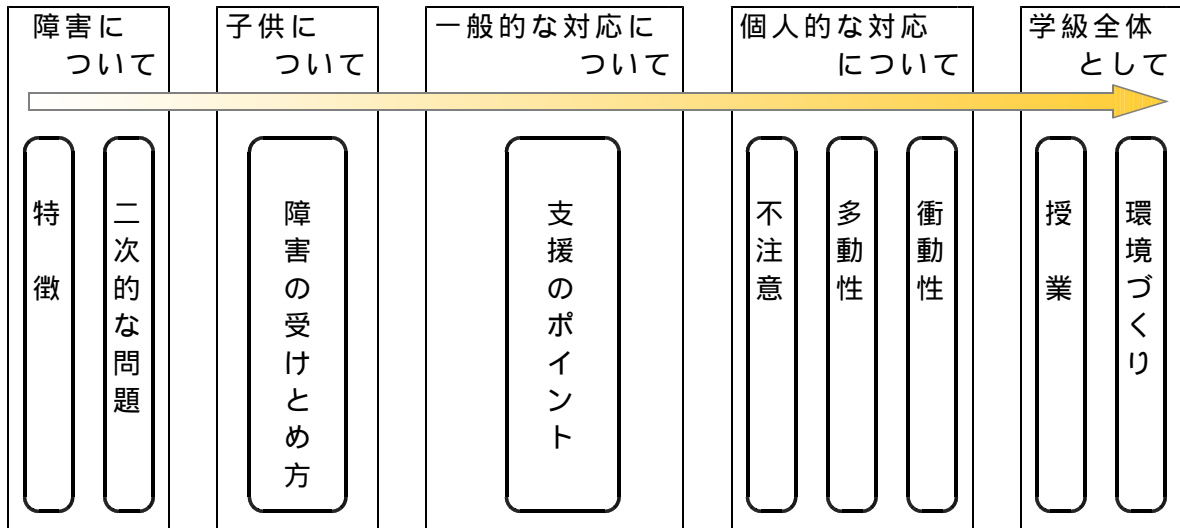


【ADHDに関するQ & A】

「Q & A」の流れ



「Q & A」

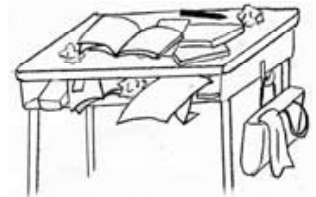
Q 1 . ADHDの子供には、どんな特徴が見られますか？

A . 主に、「不注意」「多動性」「衝動性」において特徴的な行動が見られます。例えば、次のような行動が目立ちます。

障
害
に
つ
い
て

不
注
意

- ・整理整頓が苦手で、机の中、周りに物が散らかっている。
- ・課題に取りかかっても他のことに気を取られてしまい、最後までやり遂げることが苦手である。



多
動
性

- ・教室の中を歩き回ったり、もしくは、教室から出て行ったりすることがある。
- ・席に着いていても、落ち着かず、そわそわして休みなく体を動かしている。



衝
動
性

- ・ゲームなどで自分の順番が来るのを待つことが苦手である。
- ・質問が終わる前に、答え始めてしまうことがある。

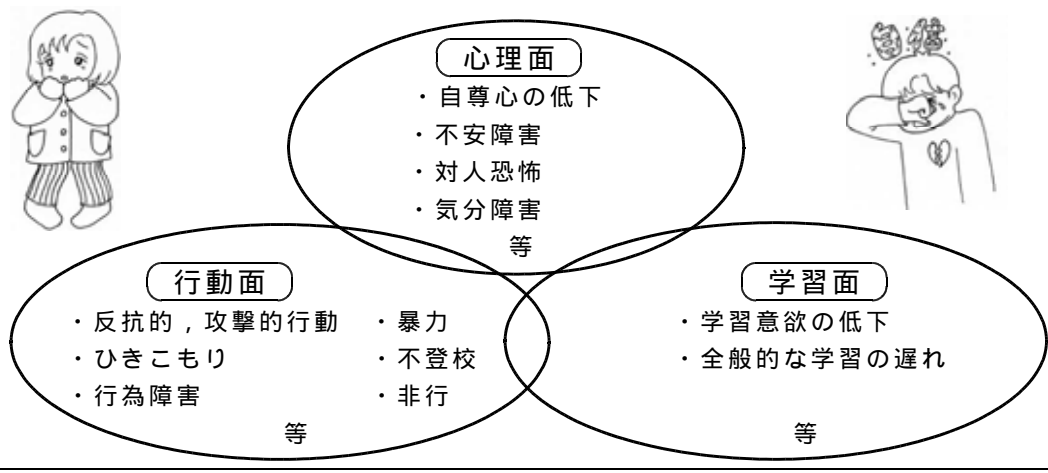
Q 2 . ADHDによって起こる二次障害にはどんなものがありますか？

A . 二次障害とは、適切な対応がなされなかったために、自信や意欲を失ったり、自己評価を下げたりすることで、その結果、不登校や無気力になったり、暴力行為などを起こしたりすることもあります。



二次障害

障害について



子供について

Q 3 . ADHDの子供をどのように受けとめればよいですか？

- A . ADHDの子供への誤解を改めましょう。
- ・保護者のしつけが原因ではありません。
 - ・愛情不足が原因ではありません。
 - ・ADHDの特徴的な行動は，わがままではありません。
 - ・ADHDの子供が原因で学級崩壊が起こるわけではありません。
- 教師の発想の転換を図りましょう。
- できないことを探すのではなく，できることを見つけていきましょう。
 そうすることで，特徴的な行動も長所として受け取ることができます。
 (活動的，好奇心旺盛，自己主張ができる，外向的で明るい，創造性が豊か 等)



一般的な対応について

Q 4 . ADHDの子供へは，基本的にどのような対応をすればよいですか？

- A . ADHDの子供へは，次のことを大切に対応していきましょう。
- 指導上の留意点**
- ・ADHDの子供の行動は，「障害のために起こる行動であり，教師に反抗しているわけではない。」ということ十分に納得しておきましょう。そうすることで衝動的な行動に対して冷静に対応できます。
 - ・強制は逆効果です。
 - ・一貫性のある指導をしましょう。
- ADHDの子供への支援のポイント**
- ・できたことに対して十分にほめましょう。
 - ・共感的理解を心がけましょう。
 - ・成功体験を積み重ねることを心がけましょう。
 - ・むやみにしかりつけるのは絶対に避けましょう。
 - ・集中できる時間を配慮した課題を与えましょう。
 - ・言葉の指示だけでなく視覚的支援も取り入れましょう。
- 学級での支援のポイント**
- ・よいところを見つけ合うような支持的風土をつくりましょう。
 - ・全ての子供が大切にされていると実感できる学級経営を大切にしましょう。その様な教師の姿勢が，学級の子供に必ず反映します。
 - ・一人一人の個性を認め合い，よさを生かす指導を心がけましょう。



個人的な対応について

Q 7 . 「衝動性」の強い子供には、どのような配慮をすればよいですか？

A . 順番を待てない子

・待つ時間を退屈なものにしない工夫をしてみましょう。

例えば...

自分の順番が来るまで、ある一定範囲を歩き回ってよいことにしたり、あと何人になったら戻って来るといった約束をしたりする。

・順番を待てた場合には十分ほめてあげましょう。

・順番を守らなかったときの友だちの気持ちも考えさせましょう。

出し抜けに答える子

・今は、誰が話す時間かをはっきりさせて、自分の順番が来るまで待たせましょう。その後、必ず話を聞いてあげましょう。後からでも確実に話を聞いてもらえることが分ければ、待つことができます。

・話しなくなったら手をあげて合図するなど話し方の約束を作り、約束が守れたら目に見える形で記録してあげましょう。



学級全体として

Q 8 . 授業ではどのような配慮をすればよいですか？

A . 授業では、次のようなことを心がけて支援していきましょう。

めあての出し方

・スモールステップでめあてを決めましょう。最低でも1週間以上続けて、効果が薄い場合はめあてに修正を加えたり、決め直したりしましょう。

活動内容の提示の仕方

・言葉だけでなく、文字や絵、写真で提示しましょう。日常的なものは、デジタルカメラ等を活用してカードを作っておくようにしましょう。

注意を持続させるための工夫

・授業の再構成をしましょう。45分、50分という枠にとらわれず、授業をいくつかの部分に分け、特色ある活動を仕組みましょう。

効果的なほめ方、しかり方

・今までの生活経験でしかられたことが多い子供がいます。できるだけほめて、自分に自信をもたせましょう。

・よくない行動に対しては、何がよくないかをしっかり理解させましょう。

Q 9 . 環境づくりで大切なことは何ですか？

A . 環境づくりでは、次のようなことに配慮しましょう。

周りの子

・「一人一人に得手不得手があり、配慮し合うことが大切だ」ということを話しましょう。その上で、つまづいている点を具体的に知らせ、本人が改善のために努力していることも話しましょう。

・困ったり悩んだりしている人は、誰でも助けを受けられることも伝えましょう。



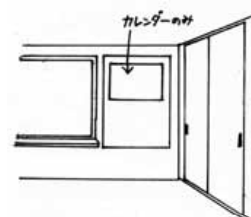
学級づくり

- ・友だちのよいところをたくさん見つけられるように工夫しましょう。自分ができないことに対しては、先生や友だちが助けてくれるという信頼感も育てましょう。
- ・「間違いや失敗は誰にもある。」ということ話し、間違いや失敗に対して笑ったり、中傷したりすることがないようにします。そうすることで、何でも話せる学級の雰囲気を作りましょう。
- ・自分に対して肯定的なイメージをもてるよう、成功体験を重ねていけるよう配慮しましょう。そのためには、誰もが活躍できる場を工夫してつくるのが大切です。



座席の位置

- ・視覚的に余計なものが入らない場所にしましょう。窓側は刺激が多いので避けましょう。
- ・机間指導の際に、支援をしやすい場所も考慮しましょう。
- ・手本になる子や支援をしてくれる子がいれば、近くの座席に座らせるよう配慮しましょう。



気をつけなければならない教室環境

- ・前面黑板や掲示板上に、その時間に必要のないものは貼らないようにしましょう。教室に必要な掲示物は側面や背面に貼りましょう。
- ・掲示物などの色も中間色など落ち着く色を基本に考えましょう。